

(社)北海道臨床工学技士会ニュース

NO. 59

ホームページ <http://plaza.umin.ac.jp/~HCEA/index.html>事務局 takao.murohashi@nifty.ne.jp

発行人：真下 泰

〒004-8618

札幌市厚別区厚別中央2条6丁目

札幌社会保険総合病院 ME部

TEL 011-893-3000

FAX 011-893-4001

第15回 (社)北海道臨床工学技士会学術大会のご案内 ~第2報~

来る10月17日(日)下記の日程にて第15回学術大会を開催予定しております。会員各位の日常業務及び創意工夫、研究など奮って多数の演題発表をお願い申し上げます。

また、会員のみなさまにおかれましては、時節柄、御多忙のことと存じますが多数の参加をお願い申し上げます。

会 期 平成16年10月17日(日)

会 場 札幌コンベンションセンター

演題締切 郵送の場合：平成16年8月27日(金)

E-mailの場合：平成16年8月31日(火)

演題送付先 NTT東日本札幌病院 臨床工学科 高橋秀一
〒060-0061 札幌市中央区南1条西15丁目290番地
E-mail：syuuichi_takahashi@smc.mhc.east.ntt.co.jp

演題発表規定

- 発表時間は、1題6分以内とし追加討論は3分以内とします。時間厳守をお願いします。
- 追加討論は、各座長の裁量で行います。
- ライカ版スライドプロジェクターを1台用意します。スライドは10枚以内にしてください。PCによる発表を希望される方は、下記の事項について厳守して頂ける場合にのみ対応致します。
 - CD-ROMにて10月8日(金)までに演題抄録送付先(NTT 東日本札幌病院臨床工学科 高橋秀一宛)に送付してください。
 - OSはWindows98以降が望ましく、アプリケーションはPower Pointをご使用ください。
 - 当日はスライドの内容は変更できません。
 - フォントは日本語の場合MSゴシック、MS Pゴシック、MS明朝、MS P明朝、英語の場合Centuryにしてください。
 - PCの場合、時間内に発表が終われば何枚のスライドを使用しても構いません。ただし、バックアップ用のスライドを必ず用意してください。トラブル時スライドがない場合には発表は中止となります。
- 演題発表予定者は、演題締切日までに400字以内にまとめた抄録集を抄録送り先までご提出ください。
- 学術大会の演題発表内容は、発表当日受付に技士会誌投稿規定に基づき原稿を受付に提出してください。

アフレス技術講習会 & 市民公開講座のお知らせ

開催日 平成16年9月12日(日)

場所 札幌コンベンションセンター

207会議室

札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

電話 011-817-1010

アフレス技術講習会

参加費 1,000円

午前9時～12:00まで

主催 (社)北海道臨床工学技士会

共催 日本アフレス学会北海道支部

この講習会は日本アフレス学会のアフレス技術認定士試験を受験する際に必要となります。講習会参加者には受講証明書を発行致します。(事前受付とします。ハガキの出欠にをつけて返信下さい。なお当日の受付も可能ですが、受講証明書の発行に時間と送料がかかります。)

司会 三浦 良一 (砂川市立病院)

午前9:00～10:00 教育講演

「移植時のアフレス治療」

講師 札幌北榆病院 外科 池田 篤 先生

午前10:00～10:30 技術講演

血液吸着 講師 アサヒメディカル

午前10:30～11:00 技術講演

二重濾過血漿交換療法 講師 クラレメディカル

午前11:00～11:30 技術講演

LDL吸着 講師 鐘化淵化学

午前11:30～12:00 技術講演

エンドトキシン吸着 講師 東レメディカル

市民公開講座

参加費 無料

午後13:00～16:00まで

司会 鈴木 保道 (滝川クリニック)

「病気とたたかう子どもたちに夢のキャンプを！」

そらぷちキッズキャンプを創る会

会長 講師 横山 清七 先生

(前東海大学医学部教授)

副会長 講師 浅野 房代 先生

(兵庫県立大学 自然・環境科学研究所

園芸療法課程教授)

現在、日本では約20万人の子供たちが難病とたたかっています。子どもたちとその家族が、ぬけるような青空や風のかおりを感じ笑顔と笑い声をとりもどせるように(社)北海道臨床工学技士会も応援したいと思います。会員皆様の参加をよろしく願いいたします。

一人一人の力が大きな力になり、夢が現実になる事を大人として教えてあげられれば・・・

会費納入についてのお願い

今年度の会費を受け付けております。前年度未納の方は、大至急納入していただくようお願いいたします。また、今年度分の会費も早急に納入していただくようご協力お願いいたします。

また、山本理事(財務担当)の勤務する施設が変わりましたのでお知らせ致します。

振り込みの際には、用紙の通信欄に“何年度分の年会費”と記載をお願いいたします。

正会員 5,000円

賛助会員/賛助団体 10,000円

口座番号 郵便局 02760-8-4815

加入者名 北海道臨床工学技士会

問い合わせ先

(社)北海道臨床工学技士会 財務担当理事

〒064-0809 札幌市中央区南9条西10丁目

医療法人札幌中央病院 臨床工学科 山本浩幸

TEL 011-513-0111

頑張れ！フレッシュズ

新企画として、新人 CE の目から見た臨床工学技士の業務について、素直な文章を書いていただくコーナーを作りました。初めて臨床工学技士を採用する施設に勤務した CE の奮闘ぶりを今後数回にわたり連載する予定です。

新人 CE の【日々迷走】

新人 A

「今日から出勤だー、ちょっと心細いけど頑張るぞ！」

私が勤めることになった病院には CE は私一人だけしかいない。学生の時みたいにわからないことは同級生か先生に聞けばいい、というわけにはいかない。本当は“ちょっと”どころか猛烈に心細いのだが、なんとか気持ちを奮い立たせて初出勤に臨んだのである。入職前に院長から「君の業務は高気圧と、手が廻るなら呼吸器やポンプも見てほしい」と言われていた。

そこでまず高気圧業務の流れを前からいるスタッフに教えてもらうことに。ところで高気圧業務というと病院実習では機会が無くて見られなかったという同級生もいたほどで、国家試験で出題数が少ないせいもあり、当然私もあまり力を入れて勉強していなかった（遅ればせながら今、勉強してます）。見ている分には「とりあえず患者さんを入れる前後に血圧と心電図を測って、あとは監視しておけば」と思うのだが、実際は血圧測定だけでも大変なのだ。痲呆があったり体が硬直している患者さんだと、カフを腕に巻くのも一苦労。あたふたしている私の腕や聴診器を引っ張っていたらずっぽく笑う患者さんには、こっちも泣き笑いの顔になってしまう。それでも2週間以上続いた治療が終わる患者さんに「今日で最後なの？今までありがとうね」と言われた時はじーんとしてしまった。

5月に入ってから事務でファイルを見せてもらい、院内の ME 機器管理体制がどのようになっているか教えてもらう。急性期と慢性期の病棟が併設されている病院なので一通りの機器は揃っているが、保守管理面は今まであまり重要視されていなかったらしい。それで事務の人は CE に期待してくれているようなのだが、私の直属の上司（放射線技師）はあまりピンと来ないのか「呼吸器の事故とか今まで院内では無かったから（今までどおりで）大丈夫じゃない？」と言われたりする。私も新米だから機器の詳しいことなんか全然わからない。でも日常点検されてない一般病棟の呼吸器や、（病院で作った）簡易マニュアルに“ダイヤルを100

に合わせて通電スイッチを押す”と書かれた除細動器が危険だということくらいはわかる。「何とか安全な状態にしたい！」という気持ちはあるけれど、私には絶対的に知識と経験（他スタッフからの信頼も）が足りない。まず何から始めたらいいのかもわからなくて、毎日じめじめと考えている状態だ。

こんな時、CE の先輩や同僚がいたらなぁと思わずにはいられない。

「君、山に登ったことある？」ある日唐突に院長に聞かれた。子どもの頃は親に連れられて少々...と答えると、いつの間にか新しく立ち上げる山岳サークルの事務担当に祭り上げられていた。メンバーは院長、看護部長、事務長などそうそうたる“上の人”と、新卒・新人の PT、OT、私など“下々の者”である。初めはお付き合い程度に参加したが、登ってみるとこれがすごく楽しい。体力がつくし、色んな人とおしゃべりできるし、山の空気が美味しいしで一石三鳥なのだ。新米 CE としてはもっと仕事の方に必死になるべきかもしれないけど、暗中模索の日々にはこんなサークル活動も良き清涼剤になっている。

いかがでしたでしょうか？感想を事務局長までメールにてお聞かせください。

訃報

去る7月18日、当会会員であります村岡克範さんが、お亡くなりになりました。村岡さんは、長年にわたり当会の事務局長、副会長、広報理事等を歴任され当会の運営にご尽力いただいた方でした。心からご冥福をお祈り致します。

RM ニュース

<技術者配置は半数以下 病院の医療機器管理>

人工呼吸器などの医療機器の不具合による事故を防ぐため操作や保守の専門技術者を常勤配置している病院は、地域の中核病院やがん拠点病院の半数以下にとどまっていることが、日本臨床工学技士会（東京都）の調査で25日までに分かった。手術や医療機器などをめぐる事故は、国立病院だけで2002年度に124件報告されるなど後を絶たない。厚生労働省は、臨床工学技士が医療機器の選定や管理に当たる体制を、各地の病院に整備する補助事業に乗り出した。

調査は昨年5月、実施。各地の病院に、人工呼吸器や血液ポンプなどの整備や操作に当たる国家資格の臨床工学技士が常勤しているか尋ねた。常勤していた病院の割合は、地域の中核病院と位置付けられ、当時全国に46あった地域医療支援病院(ベッド数200以上)で41%。同数あったがん拠点病院では48%と、いずれも半数を下回った。大学病院など先進医療を行う全国約80の特定機能病院でも、64%にとどまった。

日本臨床工学技士会によると、手術などの際、国家資格を持たないメーカーの関係者が医療機器を扱っているケースもあるという。同会の川崎忠行(かわさき・ただゆき)会長は「医療事故をなくすためには、医療機器に目を光らす監視役が必要」と話している。

(6月28日:共同通信社)

< 機器導入に追いつかない >

医療安全対策に詳しい白日高歩(しらくさ・たかゆき)福岡大病院長の話 医療安全の重要性が叫ばれている時代に、常勤配置が半数以下というのは少ない。医療機器が次々と開発され、多くの診療科で導入が進み、十分な配置が追いつかないのが実情だろう。人件費の問題もある。安全管理にはお金がかかることをあらためて認識する必要がある。

(6月28日:共同通信社)

< 名古屋市内の病院医師書類送検へ 人工透析ミスで女性死亡 >

名古屋市内の病院で昨年1月、急性腎不全で入院した女性=当時(77)=が人工透析中に血管を傷つけられ死亡した事故で、愛知県警瑞穂署は7日、業務上過失致死の疑いで担当した腎臓内科の30代の男性医師を近く書類送検する方針を固めた。

調べでは、医師は昨年1月15日午前、女性の首の静脈にカテーテルを差し込もうとした際、誤って動脈を傷つけて出血させるなどして、翌16日午後5時すぎに死亡させた疑い。死因は出血性ショック。

医師はカテーテルを誤って動脈に挿入。静脈に入れ直すために引き戻した際に、鎖骨下の動脈など2カ所を傷つけた。その後も出血場所を把握しきれずに処置し、止血できたと思い込んで透析を続け、女性を約9時間放置していたという。病院は医師のミスを認めて謝罪。

(7月8日:共同通信社)

< 1300万支払いで和解 >

医療過誤訴訟で海南市 >

和歌山県海南市の病院で、入院中に人工呼吸器が外れ死亡した同市の女性=当時(82)=の遺族5人が、市に慰謝料など約3500万円の損害賠償を求めた訴訟は16日までに、市が1300万円を支払うことで和歌山地裁で和解した。

和解条項で市は「遺族に対し遺憾の意を表するとともに、再発防止に努力する」としている。

訴状などによると、女性が同病院に入院中の2002年1月、人工呼吸器が外れ心停止しているのを看護師が発見。女性は意識が戻らないまま12日後に死亡し、長男らが昨年1月に提訴した。

病院は「死亡との因果関係は不明だが、呼吸器が外れたことは病院に責任があり、和解に応じた」としている。(7月20日:共同通信社)

北海道臨床工学技士会ニュース

広報担当	仁友会	石田病院	臨床工学科	石川幸広
編集委員	旭川医科大学	附属病院	臨床工学室	宗万孝次
	旭川赤十字病院		臨床工学課	奥山幸典
	市立旭川病院		臨床工学室	窪田将司

印刷

岡本印刷株式会社
札幌市東区北44条東1丁目
011-721-2551